

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

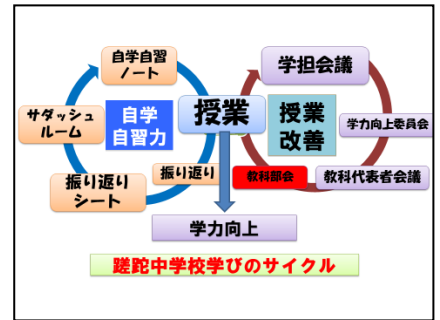
### 報告書資料 一般 - 81

学校名・団体名	枚方市立蹉跎中学校
HPアドレス	<a href="https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000008046.html">https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000008046.html</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学力を育む為の授業・家庭の「学習サイクル」の 定着
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>全国学力学習状況調査の教科の平均正答率においては、国語が AB ともに全国の平均正答率を下回り、生徒が自ら考え、対話的に進める授業スタイルが構築されてきたが、それが生徒の学力に結びついていないという課題が新たに浮き彫りになった。原因の一つとして考えられるとは、家庭での学習状況である。また、全国学力学習状況調査の生徒質問紙の「学校以外で、普段どれだけ勉強していますか」「家で学校の復習をしていますか」という設問に対して、全く勉強していない生徒が全国平均よりも5ポイント高く、さらに、家での復習についても肯定的な解答が、約8ポイント低いという結果となった。そこで、学力を高めるためには授業改善だけではなく、自学自習力を高めることも必要であると考え、今年度は、授業改善を進めると同時に、生徒の「自学自習力」を高めることと併せて、学校と家庭の「学びのサイクル」を構築し、授業と家庭学習を通して、学力を高めることにつなげる取組を研究として進めた。</p>	

## 研究の趣旨

### さだ中学びのサイクルについて

2年前より「先生が教える授業から、生徒が学ぶ授業」をテーマに授業改善、学力保障の取組を行ってきた。今年度は、全国学力学習状況調査での生徒質問で見てきた、「家庭学習が定着していない」という課題から、授業だけでなく、家庭での学習も含め、右図にあるような「学びのサイクル」を意識した授業改善及び自学自習力の定着を目指し、今年度の学習指導の方針である「全ての生徒が学びから逃げ出さない学習指導」を実現する為に実践を進めてきた。その内容について報告する。



## 1. 授業改善のサイクルについて

### ① 学担会議

週に1度、火曜日2時間目に学力向上担当教員(2名)と校長、教頭で授業改善及び自学自習力に係る方向性や具体的な取組について会議を実施した。具体的には、教科部会の持ち方、定期テストの各教科の問題作成における内容の精選、研究授業の内容の吟味など、この会議が「学びのサイクル」のPDCAサイクルを進めるPとAに当たり、毎週行うことでそのサイクルを効率よく進めていくことができるようになった。

### ② 学力向上委員会

隔週に1度、水曜日の1時間目に学力向上担当教員、5教科代表者、校長、教頭で実施した。内容は学担会議で計画立案した内容について、具体的に進めていく方策を検討したり、各教科での課題や状況の交流及び研究事業での指導案の検討などしている。今年度は特に、研究授業の指導案協議及び研究協議の持ち方、先進校視察の報告会、教科部会の持ち方などについて意見を交流し、授業改善の方向性を具体的に教職員に示す方針を作成した。



学担会議

### ③ 教科代表者会議

月に一回、学担と9教科の代表者及び校長、教頭で実施。内容は学担会議で決まったことの確認及び教科部会での取組の交流である。特に交流は、各教科が教科部会で現状でどのようなことに取り組んでいるかを確認し、各教科の取組を聴くことで、それぞれの教科の刺激となってまた教科に返すことができた。

### ④ 教科部会

各教科、週に一度、時間割の中に組み込んで教科での交流を行っている。ここでは授業改善及び学力保障の為に、教科内研究授業、全国学テなどの学力テストでの課題を受けて、定期テストの見直し及び課題に正対した問題作成にむけての検討などを行っている。

教科内研究授業は、全ての教員が教科部会の時間を利用して研究授業を行い、お互いに授業を参観しあうことで、授業改善につなげている。また、初任者の研究授業は必ず教科部会の授業を利用して、教科の全教員が見学し、指導助言が行えるにしている。

定期テストの見直しについては、全国、府の学力テストなどから見えてくる本校生徒の課題を元にして、定期テストに課題を意識した問題を出題、その問題には☆印をつけ、回答の傾向を分析し、授業などに還元することを目標とした。教科部会を時間割に定着させることで、授業改善が個人の問題から教科の問題として考えることができるようになった。

## 2. 自学自習力のサイクルについて

### ① 振り返り

「自学自習力」を高める取組の第一歩として、授業での「振り返り」を大切にする授業を考えた。枚方市では、各授業において「つかむ」→「考える」→「学びあう」→「振り返る」という過程を「授業スタンダード」という形で示しており、そのスタンダードを元に、授業では必ず「目標(ねらい)」を提示し、この授業で自分が何を学ばなければならないのかを確認し、それが達成できているのかを「振り返り」の場面を設け、一人ひとりが授業における学びの状況を確認している。そのことで自分の学びを確認し、自学自習につなげた。

### ② 振り返りシート

また、一日の授業が終わり、終礼(終わりの会)の時間に、今日一日の学びを振り返る為に、右図にある「振り返りシート」の取組を年間通して行った。その日に学習したことを早い時間に思い出すことで、学びの定着につなげ、さらにその日に学習したことが理解できているかどうかをその場で確認することにより、できていない場合は、このあと「サダッシュールーム(放課後自習教室)」で、それぞれが学びなおしにつなげたり、「自学自習ノート」を使っ

振り返りシート

た家庭学習をおこなったりすることもできるようになり、授業と家庭学習を有機的につなげ、生徒が自然と学びを意識するようになっていった。

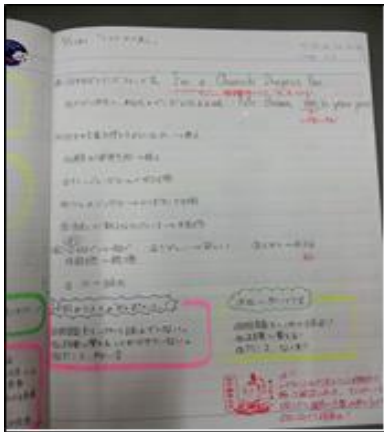
### ③ サダッシュルーム（放課後自習教室）

学んだことが、定着していない場合の手立てとして、本校ではこれまで、放課後自習教室を週に1回開き、そこで自学自習用のプリントを取り出し、必要な課題を各自で進めていた。今年度は、地域のボランティア、時間講師で交互に見ることが可能となり、ほぼ毎日開館することができるようになった。そのことで、低学力の生徒が必要なときに学び直しがいつでも可能となった。また、部活動も週に一日活動のない日を取り入れたことで、クラブで学習する日を設けるようにもなった。このことで、学びの習慣が定着するきっかけ作りができるようになった。



サダッシュルーム

### ④ 自学自習ノート



自学自習ノート

家庭学習の定着が、大きな課題であるなか、今年度より左の図にあるように「自学自習ノート」の取組をおこなった。学校から各自に一冊ずつノートを与え、宿題ではなく、自分自身で家庭学習の時間を設け、授業で分かりにくかったことの整理やまとめ、これから授業で学習する内容について予習、あるいは計算漢字などのドリル学習など何でもいいのでこのノートに自分の勉強の足跡を残すことを目標に進めてきた。このノートは週に一回学年ごとに決められた日に提出し、学びの様子を点検するようにしている。1週間の学習量で3年生はノート1.5冊 1年生でも40ページ進めるなど頑張っている生徒も見られ、そのような頑張りについては、校内に掲示しそれを刺激にして他の生徒の学習意欲を高める取組も行った。その結果、自学自習ノートを定期的に進める生徒の中に、定期テストが飛躍的に伸びた生徒も出てきた。

## 3. 成果と課題

これまで学力向上をめざし、授業改善の取り組みを進めてきたが、今年度は、授業改善及び自学自習力の取組を「学びのサイクル」という形を意識して進めてきた。特に、時間割内の教科部会や「自学自習ノート」については今年度の新しい取組である。教科部会を多く持つことで、教科でのつながり、教科としての授業改善を一週間という短いサイクルで考え直す機会を持つことができ、例年以上に教科で授業を創る意識が育った。年3回の研究授業や初任者の研究授業を行う際は、教科で指導案を作る事ができるようになった。また、定期テストにおいて、本校生徒の課題である問題を出題することで、どのような学びが必要であるか、その学びに結びつける為の授業はどのように組み立てればいいのかを考える機会を設けることができた。

一方で、「自学自習ノート」を進めることで、これまでどのように家庭学習を進めればいいのか分からない生徒が多く見られたが、他の生徒の例を参考にすることで、家庭学習の定着のきっかけ作りとなった。

課題としては、授業改善のサイクルにおいては、1年間通して教科ごとの目標の設定が不十分であった。そのため、形式だけの教科部会となることもあった。年度当初の目標設定がとても重要であることを改めて確認した。

また、生徒の自学自習力のサイクルについては、自学自習ノートの取組を一年間通して進めたが、クラスによってその取組に差が見られ、なかなか定着していない生徒もあった。

すべてにおいて、目標をしっかり持って進めることが必要であった。

## 4. 来年度に向けて

それらを踏まえて来年度は、年間を通して全ての場面での目標をしっかり定め、その目標の実現の為に具体的な方策を立てていくことが大切であり、なおかつ、その方策がうまく進められているのかを定期的に点検するつまりPDCAサイクルを充実させることが大切になる。具体的には、各教科で本校の課題に応じた単元計画を設定し、生徒にもそれを提示し、教科でのカリキュラムマネジメントを進めていき、授業改善につなげる。

さらに、来年度は言語活動の充実に向けて、特に「聴く」ということに焦点化した授業改善を全教科さらに小学校、中学校9年間で行っていく。

また、家庭学習の充実のために進めてきている「自学自習ノート」及び「サダッシュルーム（放課後自習教室）」について、学力に応じて進める手立てを構築する。「サダッシュルーム」については、低学力層の生徒が、少しでも学びに向かう姿勢を身につけるきっかけになるように、担任や教科で積極的な参加を支援する。また、「自学自習ノート」については、学力の中位層の家庭学習の定着にむけて、毎日コツコツする習慣作りを積極的に進めていく。



研究授業の一コマ